



【社会】

前がん細胞の排除高める物質発見 北大、予防薬の開発に期待

2015年11月12日 16時20分

体内でがん細胞に変化し得る「前がん細胞」を周囲の正常細胞が攻撃、排除する機能を高めしてくれる化学物質を北海道大などの研究グループがイヌなどの細胞を使った実験で初めて発見した。がん予防薬の開発につながる可能性がある。12日までに英科学誌電子版に発表した。

北大遺伝子病制御研究所の藤田恭之教授によると、イヌの培養細胞を人為的に前がん細胞に変化させ、その周囲にある正常細胞に約1万種の抗生物質などを投与し、それぞれ効果を調べていった。

この結果、抗生物質を改造した化学物質「VC1—8」が正常細胞への副作用が少なく、前がん細胞への攻撃力を高める効果が大きかった。

(共同)

Copyright © The Chunichi Shimbun, All Rights Reserved.